

# スポーツ実施を目的とする複合施設利用者の施設評価に影響を及ぼす要因の探索的研究 —新潟県長岡市のアオーレ長岡に着目して—

## Exploratory study of factors affecting facility evaluation of complex facility users in sport activities -Focusing on Aô-re NAGAOKA in Nagaoka city, Niigata prefecture-

スポーツビジネス研究領域

5019A061-2 宮原 健太

研究指導教員：原田 宗彦 教授

### 【研究背景】

急速な高齢化と人口減少が進行する日本社会では、地方社会で「小さな拠点づくり」が行われ、より大きな都市部になると「コンパクトシティの形成」が謳われている。どちらも狭い範囲に生活機能を集約させたりすることを狙いとしており、政府主導によって様々な施設や機能を集約した「複合施設」の建設が行われている。複合施設には「コストの合理化」「公共交通の合理化と利便性の向上」「相乗効果の発現」というメリットがあるとされており(内藤, 2015)、全国各地で再開発やまちのシンボルとして期待されている。

以前から図書館など公共施設の複合化が進む中、スポーツの機能を含む施設の複合化が近年の新たな傾向として見受けられる。スポーツを核として周辺一帯をも巻き込む交流空間は、超高齢社会において健康促進効果やコミュニティ構築などに有益であると期待されており、スタジアムやアリーナといった観るスポーツ施設の複合化が進んでいる(日本政策投資銀行, 2013)。

その一方で、するスポーツ施設の複合化の動きも、ここ数年で見られるようになった。従来は郊外に建設されることが多かったが、スポーツがもたらす効果に期待してか、国土交通省も

政策を通じて体育施設を積極的に中心部に誘導している(国土交通省, 2019)。

新潟県長岡市のアオーレ長岡などはその代表事例であり、今後こうした施設が全国に広がる可能性がある。こうした施設について、これまで施設管理側や運営側からの評価や理想は述べられているが、利用者側の目線で施設について述べられることは少なく、よりよい施設づくりにおいては利用者目線での評価も論じていく必要があると考えられる。

### 【研究目的】

本研究は、スポーツ実施を目的とする複合施設利用者に着目して、施設の利用状況の把握と、利用者の施設評価に影響を及ぼす要因、施設への要望を探り、スポーツをする施設の複合化にはどのような施設が望ましいかを、アオーレ長岡を例に挙げて考察することである。利用者目線での施設評価を示唆することで、より多くの人が快適に使える施設設計の一助になること、また、新たな視点でのスポーツ施設研究、スポーツをする施設の複合化に関する研究の足掛かりになることが本研究の意義と捉えている。

### 【研究方法】

調査対象は、スポーツを観ることもすること

もできる複合施設として高い評価を得ているため、アオーレ長岡を選定した。

施設評価に関する研究ではアンケート調査が多く用いられており、本研究では塚田ら(2004)が重回帰分析を用いた研究を参考に進めた。複合施設の特徴についての質問項目に探索的因子分析を行ったのち、抽出された潜在変数を用いて重回帰分析を行った。

アンケート調査は、施設の特徴について 20 項目と、スポーツ環境に関する 6 項目の計 26 項目、「アオーレは優れた施設である」という施設評価の項目 1 つを用意した。尺度は 7 段階のリッカートスケールであり、その他に基本属性や施設への滞在時間、施設への要望などを訊いている。

基本属性などをまとめた後、重回帰分析によって施設評価に影響を及ぼす要因を調べた。また、共起ネットワークによる自由回答の分析も行った。

### 【結果と考察】

利用者の多くは団体に所属しており、アオーレ長岡で定期的な活動を行っていることが分かった。複合施設での定期的なスポーツ活動には「場所の確保が大変」といった意見があり、イベントなどを不定期に開催する複合施設では、従来のスポーツ施設にはなかった課題があると考えられる。

利用者は高齢女性の割合が非常に多く、公共交通機関の利用も多かった。複合施設の利点である交通の利便性が効いた結果だと考えられる。交通の利便性が高いことは、高齢者の健康志向の高まりを行動に移しやすい環境をつくっているとも考えられ、するスポーツ施設が複合化されることにより、スポーツ参加がスムーズになっていることも考えられる。

スポーツ活動前後の過ごし方については、帰宅する方が最も多く、次いでアオーレ長岡周辺

で過ごす方、アオーレ長岡で過ごす方が多いという結果となった。周辺エリア一帯のマネジメントを含めた複合施設であることを踏まえて後者 2 つを合わせても、帰宅すると回答したの方が多かった。自由回答では駐車場の料金に関する要望も多くみられ、好立地であるがゆえにコストがかかる駐車場に長時間駐車することを嫌う方も少なくなかった。そういったことも、スポーツ活動前後に帰宅する方が多い理由だと考えられる。

複合施設の評価に影響を及ぼす要因を探るために、アンケートで使った 26 項目に因子分析を行い、抽出された「付帯店舗」「スポーツ環境」「アクセス」「駐車場」「情報収集」の 5 因子を説明変数、施設評価の項目を従属変数とした重回帰分析を行った。結果として施設評価に有意な影響を与えていたのは「スポーツ環境」のみであり、スポーツ実施を目的とする利用者にとっては、同一施設内の店舗やサービスはあまり重視されていないと考えられる結果になった。複合施設では、スポーツ環境の整備を最優先に考えることは施設の特性上難しいが、最低限の機能や清潔感を保つなど、可能な範囲内でスポーツ環境を整えることが非常に重要であると考えられる。

### 【結論】

本研究のケースでは、同一施設内の店舗や他サービスといった点は、スポーツ活動前後に利用されることは多くなく、こうした施設環境はスポーツをするという目的のもとではそれほど重要な点ではないと考えることができる。

ただし、人を第一目的外に誘導することが複合施設の狙いすべてではないことを考えると、複合施設が一つの機能に特化した施設の集合体であることが、利用者にとっては有意義な施設に映り、結果として複合施設を含むエリアの賑わいの創出につながると考えられる。